

植物の世界では、いよいよ春本番を迎えます。眠っていた木々の芽や多年草の地上部が、着々と起きだす準備を始めています。すでにみずみずしい葉を伸ばしていたり、繁殖活動を始めていたりする植物もあります。今回は、そんな早起きの植物の観察をしてみましょう。

◆春の山菜 ツクシ

つくしんぼうなどとも呼ばれ、春の到来を告げ、山菜としてむかしから親しまれてきた植物ですが、植物図鑑で「ツクシ」と探しても、見あたりません。写真や絵から探してみようと思っても、そもそもこんなおかしな形の植物は、似たものすら探せません。なぜでしょう？

それはまず、ツクシが植物の種名として植物図鑑に扱われていないからです。一般的に図鑑では、「スギナ」という名で載っています。しかし、それでもさくいんに無いことがあります。それは、その図鑑が種子植物（花が咲いてタネを実らせる植物）を扱ったものだからでしょう。

◆じつは、シダ植物

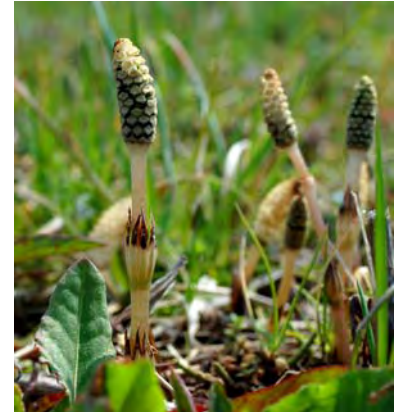
ツクシ（スギナ）は、花も咲かないし、タネもつけません。孢子で増えるシダ植物のなかまで、やはり山菜として食べるゼンマイやワラビなどと同じです。そして、ツクシとは、シダ植物であるスギナの、孢子をつくって飛ばすために春先だけに見られる孢子茎なのです。光合成をする栄養茎は、ツクシの隣に生えている、似ても似つかないマツの葉のような植物です。ツクシは葉が退化していて、食べるときに取り去ってしまういわゆる「はかま」が、その退化した葉にあたります。

◆身近にたくさんあるシダ植物

花の咲く植物に比べると目立たず、地味な印象のあるシダ植物ですが、身近なところにじつはたくさんあります。少し湿気の多い場所はもちろん、ワラビやスギナのように乾いた草原にもたくさん見られます。お正月飾りに使われるウラジロや、れっきとした園芸植物のアジアンタムなどもシダ植物です。連続的な幾何学模様を思わせる複雑な葉の切れ込みや、真冬でも元気なみずみずしい葉が見られる種類も多く、植物好きの中にはシダに魅せられた人がたくさんいます。家の周りにどんなシダ植物があるか、探してみたいかがでしょうか。

次回のお知らせ

ミニ観察会：4月28日（土）11時から
新聞 No. 12 も観察会にあわせて発行します。



ツクシ（スギナの孢子茎）



スギナの栄養茎 春先はまだ小さい



野生化したアジアンタム



ウラジロ 野生では珍しいシダ